（様式）課題場面別におけるＩＣＴを活用した実践事例または実践仮説

作成者　調布市立布田学校

実践事例

１　対象児童・生徒の実態

（１）　基本情報

小学校　第２学年　　障害種別（自閉症）

（２）　学習上又は生活上の困難

思い通りにならないと気持ちを調整することが難しく，自分なりのこだわりもあり，他者との折り合いが付けられないこともある。

（３）　困難さの背景・要因

友達との関わる体験の少なさに加え、勝ち負けを伴うゲームや遊びなども経験が少ないと考えられる。また、勝ちにこだわる思い込みの強さも要因として考えられる。

２　対象児童・生徒の指導目標及び指導目標を達成するために使用する教材

（１）　指導目標

・思い通りにならないことがあるかもしれないと，見通しをもたせ，気持ちを整えられるようにする。
・学校生活や小集団活動を振り返り，自分の気持ちと向き合えるようにする。

（２）　学習指導要領との関連

２．心理的な安定	（１）情緒の安定に関すること
	（２）状況の理解と変化への対応に関すること
３．人間関係の形成	（３）自己の理解と行動の調整に関すること
	（４）集団への参加の基礎に関すること

（３）　指導目標を達成するために使用する教材（ＩＣＴ教材等を含む）

教師用タブレット端末「Windows　PowerPoint　２０１９」
※こだわり・コミュニケーションの領域における、興味・関心を広げる・深めるためのアプリとして導入。
※コミュニケーションの学習の流れをパワーポイントのスライドにまとめ、一時間の流れを示すことで見通しをもたせたり、イラストをアニメーション化して状況を分かりやすく示すことでより理解を深められるようにしたりした。

３　ＩＣＴ教材等について

（１） 課題場面

【⑥気持ちや出来事の整理と自己コントロールや表現に関する場面】

自分の思い通りにならなかったり、勝負ごとに負けたりすると自分の気持ちを整えるのに時間がかかることがある。また、自分の思いだけで話をすすめたり、自分の都合で話を始めたりすることもある。そこで、パワーポイントのイラストにアニメーションや台詞を加えて、状況を客観的に見たり、考えたりできるようにすることで、状況の理解や自分自身の生活の振り返りに活用できると考えられる。

（２） 具体的な実践事例または想定される実践

【実践事例】パワーポイント活用　　イラストをアニメーション化して自分事として考えることができるようにする取り組み

教材等：タブレット型コンピューター　　スクリーン
教科等：通級指導教室　自立活動

ねらい：
１．日常生活の出来事のイラストにアニメーションを組み合わせることで，理解を深めることができるようにする。
２：パワーポイントで流れを示すことにより、見通しがもてるようにする。
３：イラストや文字をアニメーション化することにより、興味・関心を高める。

学習の展開：
・単元の導入や復習などをパワーポイントのスライドに組み込み，学習への関心を高める。
・本時のねらいに迫るための日常生活の出来事をイラストで紹介。
・イラストに吹き出しやアニメーションを付け加えることで，状況の理解を深める。
・予め児童の予想される発言をまとめたものをパワーポイントのスライドに用意しておき、たくさん出た意見をまとめの言葉に導いていく。
・本時のまとめの際に、スライドで紹介したアニメーションを振り返り、大事なポイントが理解や実践ができたか確認をする。

ポイント：
・スライドの大まかな流れは単元ごとに共通している方が見通しをもちやすい。
・登場人物の吹き出しを実際に児童に読ませることで、事例の出来事をより身近に感じやすくなる。
・アニメーションの代わりに、教員の劇を撮影した動画を活用することもできる。
・まとめの言葉へ導いていくための児童の発言をまとめる力や発問を精選する力が必要なため、スライドショーの流れをしっかりと把握しておく必要がある。

（様式）課題場面別におけるＩＣＴを活用した実践事例または実践仮説

作成者　調布市立布田小学校

実践事例

１　対象児童・生徒の実態

（１）　基本情報

小学校　第４学年　　障害種別（自閉症）

（２）　学習上又は生活上の困難

周囲の状況や相手の気持ちに気付けずに行動してしまうことや，自分の気持ちや出来事を端的に伝えることが苦手など，コミュニケーションを中心とした生活上の困難さが見られる。

（３）　困難さの背景・要因

相手の気持ちや意図を推測することが苦手なため，その場にそぐわない内容やタイミングで発言してしまうことが考えられる。また，対人関係に対する苦手意識から，自尊感情が低くなり，気持ちを端的に伝えにくくなっていると考えられる。

２　対象児童・生徒の指導目標及び指導目標を達成するために使用する教材

（１）　指導目標

周囲の状況や相手の気持ちに気付き，その場に応じた行動を考えたり実行しようとしたりすることができるようにする。

（２）　学習指導要領との関連

４．環境の把握	（５）	認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること
６．コミュニケーション	（５）	状況に応じたコミュニケーションに関すること

（３）　指導目標を達成するために使用する教材（ＩＣＴ教材等を含む）

録画機能を活用した状況理解動画や，PP ソフトで「自他の心情・行動」や「見通し」等を整理して作成したソーシャルスキルトレーニング

「ＩＣＴ機器（教員用タブレット端末・録画機能）」

「ＩＣＴ機器（教員用タブレット端末・PP ソフト【自作教材】）

３　ＩＣＴ教材等について

（１）　課題場面

⑤クラスのルール，決められた手順，役割分担，見通し及び行動修正に関する場面
（教室場面で，教員に自分の要件を伝える際の状況理解に関する指導）
⑥気持ちや出来事の整理と自己コントロールや表現に関する場面
（自分の要件を伝える際の，伝え方やタイミングを考える指導）

（２） 具体的な実践事例または想定される実践

■単元または短期の計画（４単位時間扱い）単元名　「上手に気持ちを伝えよう」

通級教室での様子や在籍学級での出来事から，本児の課題となるエピソードを整理した。そして教員が似たような場面の寸劇を行い，動画で記録した。まずは自分から気持ちを発信する場面を取り上げ，状況把握の指導から始める。相手が他の人と会話している最中，または作業をしているタイミングは避けるようにし，緊急時以外は相手の活動が一段落してから声をかけるよう指導した。その後「謝るとき」「困っているとき」と，場面ごとの気持ちの伝え方や話型を指導し，ロールプレイを行った。

■指導のねらい

場面を客観的に捉えることができるようタブレット端末を活用し，状況を読み取る力を身に付ける。また，コミュニケーションにおいて，絶対的な受け答えがある訳ではないことに留意し，グループ指導でも相手の状況をうかがう声のかけ方をスキルとして指導した。

■指導の実際　４単位時間扱いの１時間目（１５分程度）

【準備する教材・教具→「タブレット端末機，動画（教員の寸劇）」】

①電話をしている場面（相手が会話中）

★配慮事項

・導入は，相手が会話を終了したタイミングが視覚的にも分かる電話の場面を取り上げた。自信がもてるようにするとともに，「活動が一段落した」というポイントを児童の言葉から引き出すようにした。

②図工の学習場面も同様の手順。

★配慮事項

・タイミングを見つけるまで，何度見てもよいこととした。

・実生活に生かせるよう，児童目線のアングルで撮影した。

・材木を切る手が止まっても，工具を持ったまますぐ作業を再開する様子を見せ，工具を置くまでは作業終了ではないことを確認した。

・動画と同じ場面を教員と児童でロールプレイを行った。声のかけ方は，小集団指導で学習した「今，いいですか」と相手の状況をうかがう言葉を使うよう促した。

③他の児童を指導中の場面

★配慮事項

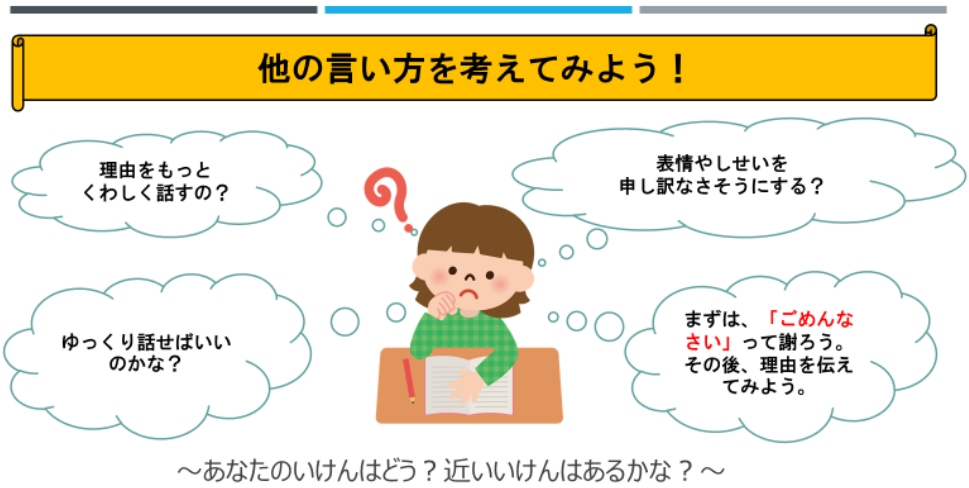
・教員が他の児童を指導しているときは，例え沈黙場面があっても話しかけてもよいタイミングではないことを確認した。

・相手が怒っている場面では，「誰かが怪我をした」など，緊急の要件以外は後にするよう指導した。

■指導の実際　４単位時間扱いの３時間目（１５分程度）

【準備する教材・教具→「タブレット端末機，PP ソフト（自作教材）】

例）



～あなたのいけんはどう？近いいけんはあるかな？～

状況場面を動画で取り入れたり，アニメーション機能を使って興味・関心を高めたりするなどの工夫をした。また，事実と気持ちを整理したり，選択肢から自分の考えに近いものを選んだりできるよう作成した。

■児童の変容

生活場面でのエピソードを取り入れたことで，学級担任や専科の先生が変容をすぐに気付くことができ褒めることができた。そこから，話しかけるタイミングや望ましい伝え方を意識しようとする様子が見られるようになり，指導開始から３か月程でタイミングについての意識が定着してきた。

（様式）課題場面別におけるＩＣＴを活用した実践事例または実践仮説

作成者　調布市立布田小学校

課題場面における ICT を活用した実践事例

１　対象児童・生徒の実態

（１）　基本情報

小学校　第５学年　　障害種別（自閉症・学習障害）

（２）　学習上又は生活上の困難

自閉症や注意欠陥多動性障害、学習障害の診断があり，周囲の状況や相手の状況を理解できずに，自分がやりたいことを押し通してしまうことで生活上のトラブルが発生し，苦手なものへも向き合えないという困難さがある。

（３）　困難さの背景・要因

友達との良好な関係を望みながら、暗黙の了解などを理解することができず、友達とのトラブルが時々ある。また、好きなものには過集中になり苦手なものに向き合えないということがある。手先の不器用さや目と手を協応させる動きに苦手さがあり、黒板の文字を写すことにも困難さを抱えているため、うまくいかない経験を重ねていることが背景としてある。

２　対象児童・生徒の指導目標及び指導目標を達成するために使用する教材

（１）　指導目標

・相手の気持ちを考えたり，自分の気持ちを相手に伝えたりすることができる。
・自分に合った気持ちの調整の仕方を実践することができる。
・視覚的な情報を活用し，自分に合った学習方法を身に付けることができる。

（２）　学習指導要領との関連

＜コミュニケーション＞（５）状況に応じたコミュニケーションに関すること。
＜心理的な安定＞（１）情緒の安定に関すること
＜環境の把握＞（２）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。

（３）　指導目標を達成するために使用する教材（ＩＣＴ教材等を含む）

・SST ワークシート、・教員が行う寸劇（状況把握動画）
・切り替え練習、・切り替えタイミングチェックシート、・タイマー、・チャレンジ課題と戦国武将かるた、優先順位表、・トランポリン
・iPad　カメラ機能　スクリーンショット、フリック道場

３　ＩＣＴ教材等について

（１） 課題場面

① 読み書きに関する場面

・板書を写すことが苦手で，読みにくい文字でまっすぐに書けず、黒板を見て書くを繰り返していると、どこに何を書いてよいのか分かりにくくなり、書くこと自体をあきらめてしまっていた。

・頭では、書きたいことがあっても、新聞などにまとめるときに文字を書くだけで疲れてしまい、未完成のままということが多かった。

（２） 具体的な実践事例または想定される実践

・板書をカメラ機能で写し、スクリーンショットでデータ化し、定規と蛍光ペン機能を活用し、書く部分を分かりやすくすることで、手元の iPad を見ながら板書をノートに写すことができるようになってきた。４回（１５分）

・フリック道場で、文字を打つ練習をし、だんだんできるようになってきたことで、文字を打つことに自信をもつことができ、調べたことをまとめる学習では、写真などを貼り付け説明を加え、発表原稿を作ることができた。（５回２０分）

（様式）課題場面別におけるＩＣＴを活用した実践事例または実践仮説

作成者　調布市立布田小学校

実践事例

１　対象児童・生徒の実態

（１）　基本情報

小学校　第３学年　　障害種別（学習障害）

（２）　学習上又は生活上の困難

・音読する際に読み飛ばしや読み間違いがある。 ・板書を写すときに、どこを写しているか分からなくなってしまう。 ・拗音やカタカナ、漢字の表記、九九が定着していない。 ・持ち物管理が苦手で、物をなくしてしまうことが多い。

（３）　困難さの背景・要因

・集中して見ることが難しく、文字を目で追うことができない。 ・形を捉えることが苦手。 ・記憶を保持しておくことが難しい。 ・不注意傾向があるため、物の管理が難しい。

２　対象児童・生徒の指導目標及び指導目標を達成するために使用する教材

（１）　指導目標

・文章を正しく読むことができる。 ・文字を正しく表記したり、スムーズに写したりすることができる。 ・持ち物を整理整頓することができる。

（２）　学習指導要領との関連

１．健康の保持（４）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。 ２．心理的な安定（１）情緒の安定に関すること。（３）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。 ４．環境の把握（２）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。

（３）　指導目標を達成するために使用する教材（ＩＣＴ教材等を含む）

○「児童用タブレット端末・カメラ機能」 ○「児童用タブレット端末・電卓機能」 ○「MIM など読み書きプリント→児童用タブレット端末・MIM アプリ」 ○「リーディングトラッカー（読みの補助具）を使っての教科書音読予習→児童用タブレット端末・デイジーアプリ」

３　ＩＣＴ教材等について

（１）　課題場面

①読み書きに関する場面 ②読字や意味把握に困難さがある場合 ③書字の困難さがある場面

（２）　具体的な実践事例または想定される実践

【実践事例】 〇「機能代替アプローチ」として活用する支援機器教材の使い方学習として、カメラ機能の撮影・拡大の練習、電卓機能の使い方の確認、在籍学級で使用した後の振り返りを３回（１回あたり１０分）指導した。その結果、在籍学級で板書を撮ってノートに写すことや算数の筆算で行う作業などにタブレット端末を活用できるようになった。 【想定される実践】 〇特殊音節やカタカナ表記の確認に、MIM アプリを使うことで１回あたり１０分指導すれば、正しい表記が定着するだろう。 〇教科書の音読予習に、デイジーアプリを使うことで一単元３回（１回あたり１０分）指導すれば、正しく音読できるようになるだろう。